

葬儀装飾の技術と速さの向上

1. はじめに

就職先でのインターンシップで、葬儀装飾の経験が少ないため社員の方に比べて倍以上の制作時間がかかっていた。

就職先の供花、枕花、祭壇のデザイン（図-1）を繰り返し制作することで、完成度を上げ、制作時間を短縮することを目的とした。

祭壇は下段と上段 2 回に分けて制作した。



図-1 就職先のデザイン

2. 制作内容

（1）供花



1 回目



4 回目

- ・スプレーマムの向きが正面を向いていなかった。
→後ろに下がり確認する。
- ・カーネーションと輪菊の横ラインが一直線になっていなかった。
→花の頭を揃えるようにした。
- ・花を選択せず、手に取った花から使用することが多かった。
→その場所に適した花を使用するようにする。
- ・アウトラインをきれいに出来た。
- ・挿し直しを減らすことが出来た。
- ・回数を重ねるごとにきれいに挿せるようになってきた。
- ・1回目は1時間かかってしまった。
→25分まで短縮することが出来た。

(2) 祭壇

祭壇Ⅰ(下段)



1 回目



4 回目

- ・両サイドが直線になってしまった。
→膨らみを出すように挿したがアウトラインが右上がりになっていた。
- ・スプレーマムが低くなってしまった。
→花びらの先端が揃うように挿した。
- ・両サイドのカーブが違った。
→左右交互に挿せていなかった。
- ・だんだん膨らみを出すことが出来るようになってきた。
- ・1 回目より時間を短縮することが出来た。

祭壇Ⅱ(上段)



1 回目



3 回目

- ・両サイドのカーブが違った。
- ・下のラインが揃っていないかった。
→終点を決めていなかったから。
- ・スプレーピンポンマムが凹凸になってしまった。
→花の頭を揃えて挿す。
- ・アウトラインをきれいに出来た。
- ・1 回目 176 分かかったのが、76 分まで短縮することが出来た。

3. まとめ

就職先のデザインを繰り返し制作することで、完成度を少しずつ上げて制作することが出来た。また、時間は何回も制作していく中で目標の 30 分より供花は 5 分、祭壇は、目標時間は越えてしまったが、短縮することが出来た。

制作を通して、花が正面を向いていないことが多く、正面を向いていないと目立ってしまうので、正しい向きで挿さなくてはいけないと思った。何度も指摘されたので、当たり前出来るようにしたいと思った。

手に取った花から使用してしまうことが多かったので、咲き方や大きさを見て、その場所に適した花を使用していきたいと思った。冬の葬儀場は暖房が入り、つぼみの輪菊はすぐ咲いてしまい、開花した状態を想定して挿さなくてはいけないと思った。

改善点を踏まえてこれからも制作時間を短縮していき、卒業制作より完成度の高い作品を制作して、学んだことを今後の就職先で活かしていけるようにしたい。